

[一]

次の——線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① おにのような形相でにらむ。
- ② 相手の都合をたずねる。
- ③ 見事な細工をほどこす。
- ④ 予定から外す。
- ⑤ 胸を反らす。
- ⑥ ヨウイに問題を解決する。
- ⑦ 新商品のセンデンをする。
- ⑧ 会社のギョウセキが上がる。
- ⑨ 重要な任務をオビる。
- ⑩ 人数分の席をモウける。

[二]

次の問いに答えなさい。

問一 次の1～3の□に当てはまる数字を漢字一字でそれぞれ答え、慣用句を完成させなさい。

- 1 □ 聞は一見にしかず
- 2 悪事 □ 里を走る
- 3 □ 階から目薬

問二 次の1～3の文の——線部と同じ種類・用法のものを後の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 私の飼っている犬は小さい。
ア その消しゴムは私のです。
イ 私の父が働いている会社だ。
ウ さくらのつぼみが咲く。
エ 君の住む町に行く。
- 2 紅葉を見に出かける。
ア 父にお使いをたのまれる。
イ てぶくろを買いに行く。
ウ 旅行で京都に行く。
エ 教室が静かになる。
- 3 ようやく勉強が終わった。
ア 昨日は祝日だったね。
イ 電源をぬれた手でさわってはいけない。
ウ 曲がりくねった道を走る。
エ ちやうど起きたところだ。

問三 次の1～4の熟語は、二つの漢字の間に意味の上でどのような関係がありますか。後のア～オの中から適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 親友
2 天地
3 開会
4 身体
- ア 反対や対になる意味の字を組み合わせたもの。(例…強弱)
イ 同じような意味の字を組み合わせたもの。(例…岩石)
ウ 上の字が下の字の意味を説明しているもの。(例…善人)
エ 下の字から上の字へ返って読むと意味がよくわかるもの。(例…登山)
オ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。(例…不足)

真由菜は、走っていた。必死に走っていた。

わたし、なんで、こんなに走っているんだろう。

なぜ？ どうして、止まらないの。助けて、だれか助けて。

叫ぼうとして口を開けたとき、足の下にばかりと穴があいた。

落ちていく。穴の底へとまっ逆さまに落ちていく。

目が覚めた。白い天井が見える。青いチェックのカーテンも見え、

まちがいなく、真由菜の部屋だ。時刻は、もうすぐ午前七時になると

ころだった。いつもの起床時間より三十分も早い。だけど、もう一度、布団にもぐりこむ気にはなれなかった。

ため息をついていた。ため息をつくとき涙が零れそうだった。

ひどいことをしちやった。花歩ちゃんにひどいことしちやった。

昨日の放課後、真由菜は、花歩ちゃんのくつ箱に手紙を入れた。それは、とてもいいわるな手紙で、中には「死ね」とか「バカバカ、バ イキン女」とか「学校にくるな」といった、汚い言葉が書きつらねて ある。そんな手紙を花歩ちゃんのくつ箱に入れたのだ。

「真由ちゃん、入れてきてよ」

光子ちゃんに言われた。手紙を書くように言ったのも光子ちゃんだ。破いたノートに、光子ちゃんや久美恵ちゃん綾美ちゃんたちが、い ろんないいわるな言葉を赤鉛筆や黒のボールペンを使って書いた。その

なさんもぜひ、見てください。ほんとうにすばらしいです」

にこにこ笑いながら、すばらしい、すばらしいを連発したのだ。光 子ちゃんの作品については一言もふれなかった。

だから、光子ちゃんは花歩ちゃんにむかっているのだ。花歩ちゃ んみたいな、勉強でも運動でも、そんなに目立たないような子に負 けて、悔しいのだ。

でも、でも、それって……花歩ちゃんのせいじゃないよ。

そう言いたかった。花歩ちゃんとは、幼稚園のときから友だちだ。 そのころから、花歩ちゃんは静かで優しく絵が上手だった。

「まあちゃんにプレゼント」

一年生のとき、花歩ちゃんは真由菜の顔を画用紙いっぱい描いて、 誕生日に渡してくれた。十二色のクレヨンで丁寧に描いてある。絵の 中にはたくさん色とりどりの花が咲いていた。とくに、真由菜の胸 のところに咲いた白い花は、ハート型の花弁のすてきなすてきな一輪 だった。

花歩ちゃんは、今でもたいせつな友だちだ。いじわるな手紙なんて 書きたくない。だけど……。

光子ちゃんの顔をちらりと見上げる。書きたくないって言ったら、 次は、あたしがいじめられるかもしれない。それは……嫌だ。

「真由菜ちゃん、早く」

② 光子ちゃんの声が少しとがってくる。

「だけど……何て書いたらいいか、わからないし……」

「死んじやえって書けば。その下にドクロも描いてよ」

真由菜は言われたとおりにした。

死んじやえ。そしてドクロの絵。

後、光子ちゃんが真由菜の前に、ノートを差し出したのだ。ノートは、 お葬式の写真みたいに黒くふちどられていた。（ 1 ）した。

「真由菜ちゃんも、何か書いてよ」

「え……でも、わたし……」

① 「花歩ちゃん、むかつくでしょ。ちよつとだけ懲らしめてやろうよ」

光子ちゃんは、真由菜に向かって片目をつぶってみせた。光子ちゃ んのことは嫌いではない。はきはきしていて、頭もよくて、親切なと ころもある。去年も同じクラスだったけれど、体育の時間、転んでケ ガをした真由菜を保健室まで連れて行ってくれた。その日の下校のと き、家の近くまで真由菜の荷物を持って送ってくれた。「痛くない？ 無理しないで、ゆっくり歩けばいいよ」と真由菜にあわせてゆっくり 歩いてくれた。優しいのだ。光子ちゃんの内側にはとても優しい部分 がある。でも、気が強くて、誰かに負けることにがまんできない部分 もある。

この秋、市が主催する「小、中学校秋の展覧会」に学校の代表とし て、光子ちゃんと花歩ちゃんの絵が出品された。そして花歩ちゃんの 絵は、みごと最高の「市長賞」に選ばれたのに、光子ちゃんの作品は 佳作にもならなかった。朝礼のとき、全校生徒の前で校長先生は、花 歩ちゃんのことだけをほめた。

「とてもすばらしい絵です。額に入れて正面玄関に飾りますから、み

それを花歩ちゃんのくつ箱に入れた。入れた後、光子ちゃんたちと

いっしょに陰に隠れて、花歩ちゃんのようにうすを見ていた。花歩ちゃん は手紙を読んですぐ、顔を歪めた。くしゃり。そんな音が聞こえそう なほど、強く歪めた。涙がもりあがり、コンクリートの床にぽつん、 ぽつんと落ちていく。とても辛そうな顔だった。目にやきついている。

真由菜はベッドから出て、窓のカーテンを開けた。鳥の声が聞こえ る。空は青く、うすい雲がベールのように広がっている。そのうす雲 を貫いて、朝の光がきらきらと地上にふりそそいでいた。とてもきれ いな秋の朝だけれど、真由菜の心は重い。重すぎて、うまく息ができ ないほどだ。花歩ちゃんの顔を見るのが苦しかった。吐き気がする。

このまま、休んじやおうか。気分が悪いって休んじやおうか。だけど、 明日はどうする。明後日はどうする。何日、休んだって、ベッドの中 でうずくまっていたって、自分のやったことが消えてしまうわけじゃ ない。

どうしよう……。

そのとき、（ 2 ）思い出した。あの絵、花歩ちゃんが誕生日 のプレゼントにくれた絵。あれ、どうしただろう。長い間、忘れてい た。あの絵が見たい。どうしても、見たい。今、すぐに。

④ 机の一番下の引き出しをあける。『たからものはこ』と、平仮名 で上書きしてある白い箱があった。写真とかビーズのアクセサリーと か、人形とか、昔大事にしていた『宝物』が、一杯入っている。

「あつた」

赤いリボンでくくられた画用紙があった。リボンを解き、伸ばして みる。微かだけれどクレヨンの匂いがした。

わたし？

真由菜の顔だ。画用紙いっぱい笑顔。小さなころの真由菜が笑っている。耳の下で切りそろえた髪型の真由菜、すごく楽しそうに笑っている真由菜。前歯が一本、ぬけている真由菜。後ろにはいろんな花が咲き乱れている。色だけじゃなくて、花の形も一つ一つちがつていた。そして、胸には白い花が咲いている。絵の中から、笑い声が零れてきそう。花の香りが漂ってきそう。

わたし、こんなにすてきな顔で笑っていたんだ。こんなに明るく、楽しそうに笑っていたんだ。

まあちゃん。

花歩ちゃんの声が聞こえた。

まあちゃんの笑った顔、描いたんだよ。わたしが一番好きなまあちゃんの顔、描いたの。プレゼントになるかな？

花歩ちゃんはちよつと恥ずかしそうに、この絵を渡してくれた。

花歩ちゃん……。

その朝、真由菜は四つ角のところに立っていた。ここで待っていれば、花歩ちゃんを通る。花歩ちゃんに会って、謝ろう。

「花歩ちゃん、昨日の手紙、わたしが書いたの」。正直にそう言おう。それから深く頭を下げよう。「ごめんなさい」って謝ろう。謝ったら、花歩ちゃんは許してくれるだろうか。もしかしたら、怒るかもしれない。「ひどいよ、あんな手紙、書くなんてひどいよ」と、真由菜のこ

とを怒るかもしれない。口をきいてくれなくなるかもしれない。

真由菜は両手を強くにぎりしめた。

でも、謝らなくちゃならない。このまま黙っていたら、二度とすて

きに笑えなくなる。謝らなくちゃ、どうしても謝らなくちゃ。

花歩ちゃんの姿が見えた。少しうつむいてゆつくりと歩いてくる。

「花歩ちゃん」

名前を呼んで、真由菜は一步、花歩ちゃんに近づいた。

(あさのあつこ「まあちゃんの白い花」文藝春秋より)

※1 佳作……コンクールなどで、入賞した作品の次に優れた作品。

問一 (1) (2) に当てはまる言葉として最も適当なものの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1)
ア がくつと
イ ぼおつと
ウ はつと
エ ぞつと

(2)
ア さつと
イ ふつと
ウ ずつと
エ きつと

問二

線部①「花歩ちゃん、むかつくでしょ」とありますが、なぜ光子は花歩に「むかつ」いているのでしょうか。その理由として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勉強や運動でそんなに飛びぬけた存在ではない花歩に負けたから。

イ 校長先生が全校生徒の前で光子の作品には一言もふれず、花歩の絵だけをほめたから。

ウ 絵が上手であることで花歩が得意になっているように思われたから。

エ 展覧会で光子の作品は高い評価を得られなかったのに、花歩の絵は最高の賞に選ばれたから。

問三

線部②「光子ちゃんの声が少しとがってくる」とありますが、このときの光子の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 書くべきことはいくらでもあるのに、いつまでも手紙を書けずにいる真由菜にあきれている。

イ 真由菜がもたもたしていたら、花歩が帰る前に手紙をくつ箱に入れられないとあせっている。

ウ 自分たちの仲間に加わろうとしない真由菜を次のいじめの標的にしようと思っている。

エ 早く手紙を書かせたいのに、真由菜がなかなか書こうとしないのでいらだっている。

問四

——線部③「光子ちゃんたちといっしょに陰に隠れて、花歩ちゃんのようすを見ていた」とありますが、手紙を読む花歩の様子を見た真由菜の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア やりたくてやったことではなかったが、花歩のことを深く傷つけてしまったと思い、やるせない気持ちになっている。
- イ 花歩が泣く姿を見ることで、光子も満足してくれるだろうと思ひ、胸をなでおろしている。
- ウ 自分一人でやったわけではないが、筆跡から自分も手紙を書いたことを花歩に気づかれるのではないかと不安に思っている。
- エ たちの悪いいたずらくらいに思っていたが、泣くほど傷ついている花歩の様子を見てびつくりしている。

問五

——線部④「あの絵が見たい。どうしても、見たい。今、すぐ」とありますが、このときの真由菜の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分と花歩の仲がよかった頃を思い出すことで、自分のしてしまったことをごまかし、不安な気持ちを落ち着けようと思っている。
- イ 花歩に対して取り返しのでないことをしてしまったと後悔し、自分と花歩との間にあったつながりを思い出したいと思っている。
- ウ 花歩が自分のために描いてくれた絵を見ることによって自分のしたことを反省し、これからは光子に立ち向かっていこうと決意を固めている。
- エ 花歩に絵の才能があることを思い出し、花歩の絵が光子のものよりも展覧会で高く評価されたのは当然のことだと思い始めている。

問七

本文の内容と表現についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 思い通りにならないことで悩む思春期の女の子たちの複雑な心情が、同じ思いを抱えている同級生たちとの会話を通じて生々しく描かれている。
- イ 冒頭の悪夢の部分において、理由もなくいじめられている花歩の立場になって苦しむ真由菜の姿が、幻想的な表現により描かれている。
- ウ 実際には起床から登校までのわずかな時間のできごとでありながら、ところどころに真由菜の回想を入れることで、いくつもの時間が重なり合うように描かれている。
- エ 花歩のことを快く思っていない人物を複数登場させ、教室におけるいじめの実態がそれぞれの視点を通して多面的に描かれている。

問六

——線部⑤「謝らなくちゃ、どうしても謝らなくちゃ」とありますが、真由菜がこのように考えるのはなぜですか。花歩が描いてくれた絵の内容をふまえて五十字以内で答えなさい。

「道徳」と聞いてみなさんは何を思い浮かべますか。規範意識やしつけ、それとも倫理感や価値観でしょうか。『広辞苑』によると、「人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体。法律のような外面的強制力を伴うものでなく、個人の内面的な原理」とあります。かみ砕いてみると、法律で罰せられるものではないけれど、社会生活を営む上で、共同体を形成する人の心の中に共通して存在している規範ということになるでしょうか。

こうした規範や価値観は、社会や家庭によって何世代にもわたって慣習的に引き継がれていくものです。ただ、近年は価値観が多様化し、社会や家庭の伝承力も弱まってきて、「共通して存在」しなくなってきたというものもあります。

身近な例を挙げてみます。みなさんは、電車内で女性が化粧をするのをどう思いますか。不快な感じがするでしょうか、(1)、あまり気になりませんか。東京のある鉄道会社は、車内化粧が増えていることを受けて、「マナー違反で、みっともないからやめましょう」と利用者へ訴えかける広告を作りました。

読者には若い方が多いでしょうから、もしかすると「化粧をしたって、人に迷惑をかけているわけではないのだから、問題ないんじゃないの」という意見があるかもしれません。

とはいえ、二、三十年前までは、車内で化粧する人に遭遇することは一度もなく、鉄道会社がわざわざマナー違反の広告を出す必要もありませんでした。この間に規範に関する考え方が、微妙に変化してきたのです。

③ 大人が「近ごろの若者は……」と言って、若者のモラル低下を嘆くのはいつの時代も変わりません。若い世代からすれば、うつとしいと感じることもあるでしょう。(2)「自分たちが小さいころに教えられ、その後肯定してきた価値を次の世代にも受け継いでもらいたい」と大人が考えるのは自然なことです。ただ、大人たちの思いが無条件に引き継がれるわけではなく、若い世代の価値観や時代状況とのせめぎ合いの中で、道徳的な正しさは定まっています。学校の道徳は、そうした規範や価値をめぐる教育を担ってきました。

④ 学校の道徳に携わる人たちが取材すると、道徳教育への期待には主に二種類あるのが分かります。一つは、伝統的な規範意識やしつけを教えるために道徳が必要だという考え方です。「いじめが起きるのは、学校で規範意識をちゃんと教えていないからだ」という指摘も同一線上にあります。小中学校の道徳の教科化にも「規範意識を教えるはずの道徳教育が機能していない」という考え方が少なからず反映されています。徳目主義と呼ばれることもあります。正義、誠実、勇気などの価値を、子どもたちになかば教え込むことによって、道徳性が養われるという立場です。車内化粧で言えば、有無を言わず「迷惑だからやめなさい」ということになるでしょう。

ただ、教えられた価値や規範に全面的には同意できず、「現実にはそぐわないのではないか」と疑問を持つような児童生徒にとっては、

※1 規範意識やしつけ、それとも倫理感や価値観でしょうか。『広辞苑』によると、「人のふみ行うべき道。ある社会で、その成員の社会に対する、あるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として、一般に承認されている規範の総体。法律のような外面的強制力を伴うものでなく、個人の内面的な原理」とあります。かみ砕いてみると、法律で罰せられるものではないけれど、社会生活を営む上で、共同体を形成する人の心の中に共通して存在している規範ということになるでしょうか。

※2 迷惑をかけてはいけない」と強弁できるかもしれませんが、隣の座席で飲食されて気にならない人はほとんどいないはずで、同様に考えていくと、車内での化粧に多くの人が抵抗を感じるのには理解できるでしょう。年齢の高い方の中には「車内で化粧なんてとんでもない。議論の余地などまったくない」と、切って捨てる人もいるかもしれません。鉄道会社も、車内での化粧は道徳的に正しくない行為として利用者へ理解を求めたのです。

しかし、この広告を見たとりわけ若い世代からは「無害なのに、「みっともない」という理由だけでなぜ批判されるのか」「よつぱらいや痴漢など、迷惑な客は他にもいる」と反発する声がインターネット上に書き込まれました。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

※3 教え込みは必ずしも効果を発揮しません。教員が「きちんと指導した」と得心しても、子どもが承服していなければ、価値や規範の実践者にはならないからです。「建前でもいいから、正義や勇気が分かっているればよい」と考える人がいるかもしれませんが、教え込まれて覚えたことは、おうむ返しのように再現するのは可能ですが、状況の変化に合わせて応用が利かないのが弱点です。

※4 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

※5 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

(名古屋隆彦『質問する、問い返す』岩波書店より)

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

- ※1 規範……………行動や判断の基準やその手本となること。
- ※2 強弁……………自分の意見を強く言い張ること。
- ※3 得心……………納得すること。
- ※4 承服……………もつともだと思ひ、それに従うこと。
- ※5 おうむ返し……………他人の言ったとおりに言い返すこと。
- ※6 既存……………以前からすでに存在すること。

問一 (1)・(2)に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ つまり
- ウ ところで
- エ それとも

問二 線部①「近年は価値観が多様化し、社会や家庭の伝承力

も弱まってきて、『共通して存在』しなくなってきた」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 法律は絶対を守るべきものだという考え方が社会に定着し、学校でも規則を守ることを徹底して教育してきたことで、これまで以上に規範意識が強くなっているということ。
- イ 若者に対する社会の影響力が弱くなったことで、若者が自分勝手な考えを持つようになり、これまでの規範意識が役に立たなくなってきたということ。

ウ 急激な科学技術の発展により、世代間における価値観が変化し、伝統的な社会の規範意識が通用しなくなってきたということ。

エ 人々がさまざまな考えを持つようになり、社会や家庭での教育の力も弱まってきたことで、これまで共有されていた規範意識が失われてきているということ。

問三 線部②「強烈な一発をお見舞いされた」とありますが、

筆者はなぜこのように感じたのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分では若いつもりでいたが、若い人から見れば自分も「おやじの一人」だと思われていたことに気づいたから。
- イ 自分ではマナー違反だと思っていたことが、若い人から迷惑な行為だと面と向かって指摘されたから。
- ウ 電子機器の急速な普及によって、自分の行為がいつの間にか時代遅れなものだと思い知らされたから。
- エ 自分でも内心みつともない行為だと思っていたことを若い人に注意され、恥ずかしく思ったから。

問四 線部③「大人が『近ごろの若者は……』と言って、若者の

モラル低下を嘆くのはいつの時代も変わりません」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 道徳的な正しさというものは大人の価値観を次の世代に教えることで引き継がれるもので、大人が考える自然な形で受け継がれるものではないから。
- イ 道徳的な正しさというものは学校や社会での話し合いの場を経て決まってくるもので、大人の思いが無条件に受け継がれていくものではないから。

ウ 道徳的な正しさというものは大人の価値観を若者の価値観が乗り越えることで形成されるもので、大人の考え方が若者に尊重されることはないから。

エ 道徳的な正しさというものは大人の価値観と若者の価値観の相違に応じて変わり続けるもので、大人の価値観がそのまま受け継がれていくものではないから。

問五

線部④「伝統的な規範意識やしつけを教えるために道徳

が必要だ」という考え方」とありますが、このような考え方による道徳教育を受けると子どもたちはどのようなになると筆者は考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 正義、誠実、勇気などの価値を教え込まれることで、大人が考える通りの道徳性が養われるようになる。

イ 大人の強制的な教え込みに反発して、言われたこととは反対の行動をとるようになる。

ウ 教えられたことを表面的に実行することはあっても、その場に応じた行動はできなくなってしまう。

エ 道徳は建前だと考え、学校生活の中でだけ守っていればいいものだ」と割り切ってしまうようになる。

問六

X

に当てはまる言葉をこれより後の文中よりぬき出して答えなさい。

問七

筆者の考える理想的な「道徳教育」とはどのようなものですか。文中の言葉を用いて答えなさい。

(問題は以上です。)

